

令和6年産

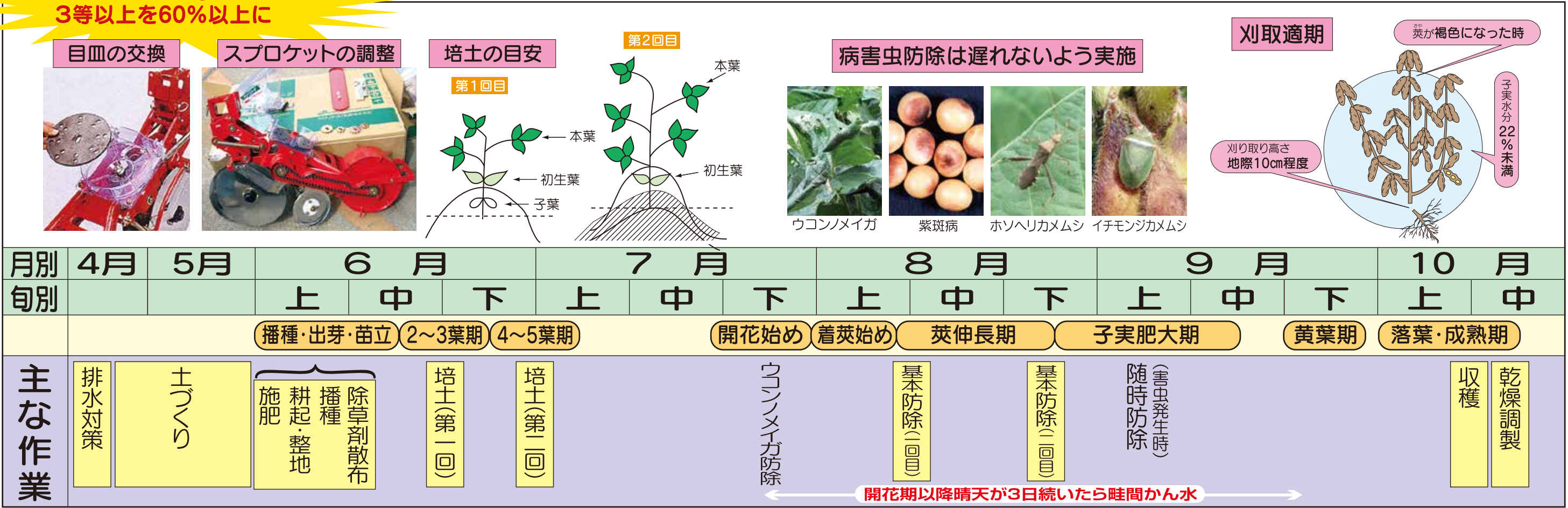
大豆栽培こよみ

あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会
※肥料・農薬名は農協の推奨品目です

～基本技術の徹底!! 収量・品質の向上を目指しましょう!!～

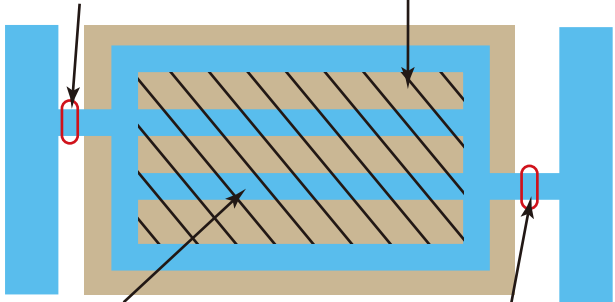
1. 播種前から収穫まで排水対策を徹底	2. 石灰質資材と堆肥等の施用で土づくり	3. 適正な栽植本数の確保	4. 晴れ間を逃さず2回培土を実施	5. 病害虫防除の徹底	6. 開花期から9月上旬まで水分不足時は畦間かん水	7. 子実水分22%を切ったら刈取り開始
---------------------	----------------------	---------------	-------------------	-------------	---------------------------	----------------------

目標単収200kg/10a以上
3等以上を60%以上に



1.排水対策の徹底

- 4月中には場が乾いている時に額縁排水溝を掘る
- 排水不良田は、積極的に心土破碎を実施する
- 播種時、培土時にできた溝は、基幹排水溝に繋ぐ



③基幹排水溝は播種直後に設置 ②排水口は低く掘り下げる



サブソイラーによる心土破碎

2.土づくり

- pHを高めるため、石灰質資材を必ず散布する (10a当たり)

		一般田	赤土客土田
土改資材	苦土石灰	100～200kg	
	粒状ようりん	—	20～40kg

- 有機物で地力の向上

堆肥等の10アール当り施用量の目安	緑肥作物のすき込み(5月中旬)
牛ふん・豚ふん、糞から堆肥 1～2t	エンバク:3月下旬播種(播種量6～8kg/10a)
発酵鶏糞 → 100～200kg	ヘアーベッチ:前年秋播種(播種量4kg/10a)

3.種子消毒

- 主要病害虫防除のため、種子消毒を必ず実施する

薬 剤 名	対 象 病 害 虫	処 理 方 法
クルーザー-MAXX	アブラムシ類、タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ 茎疫病、リゾクトニア根腐病 苗立枯病(ピシウム菌)、紫斑病	乾燥種子5kgあたり 原液40mℓ塗沫処理

4.耕起～播種

- 6月上旬以降のは場の乾いている日に播種する
- 播種時期や品種に応じてスプロケットと目皿を交換する
- 耕起、施肥、播種、除草剤散布までの作業は一日で終える
- 青立ち防止のため、過剰施肥は避ける

〈耕起〉
砕土率(2cm以下の土塊)60%以上を目安に起こす
〈施肥(側条)〉

	資材名	一般田	赤土客土田	麦跡
基肥	BB084	20kg	30kg	40kg

※全層施肥の場合は、窒素成分で2割程度増やす

〈播種〉
○3cmの播種深度と栽植本数の確保に努める

品 種	播種時期	栽植本数	条 間	株 間	播 種 量 (大粒換算)
エンレイ (えんれいのそら)	6月上旬	14,000本	80cm	16cm	5.6kg
	6月中旬	16,000本		14cm	6.4kg
シュウレイ	6月上旬	12,000～ 15,000本	80cm	15～ 19cm	4.9～ 6.2kg
オオツル	6月上旬	10,000～ 12,000本	80cm	19～ 22cm	4.4～ 5.3kg

※大豆の連作はやめましょう
(雑草・病害虫が増え、地力も低下)

食の安全は栽培記録とGAPの確実な実践から 作業の後は忘れず正確に記録しましょう!

5.雑草防除

雑草防除は、培土が基本! 晴れ間を逃さず、2回実施!

- 〈播種直後〉
- 播種、覆土後、土に湿り気があるうちに散布する
- 砕土率を高め、均一に散布する
- 〈生育期間中〉
- 発生雑草に応じた薬剤を使用し、まき遅れない
- 大豆に薬害が出る場合もあるので、使用上の注意をよく読んだうえで使用する

	薬剤名	10a当たり散布量	適用雑草
播種直後	ラクサー粒剤	4～6kg	1年生雑草
	プロールプラス乳剤	薬量:400～600mℓ (水100ℓで希釈)	

	薬剤名	10a当たり散布量	適用雑草	処理方法	使用時期
大豆生育始期	パワーガイザー液剤	薬量:200～300mℓ (水100ℓで希釈)	1年生雑草	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	出芽直前～3葉期 (雑草発生始期～2葉期)
大豆生育期	ポルトフロアブル	薬量:200～300mℓ (水100ℓで希釈)	1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草茎葉散布	イネ科雑草3～10葉期 収穫30日前まで
畦間処理	大豆バサグラン液剤	薬量:300～500mℓ (水100ℓで希釈)	1年生広葉雑草	畦間雑草茎葉散布	大豆の生育期(雑草6葉期まで) ただし収穫45日前まで
	ロロックス(水和剤)	薬量:100～200g (水70～150ℓで希釈)	1年生雑草	畦間・株間処理	本葉3葉期以降(雑草草丈15cm以下) ただし収穫30日前まで
	ザクサ液剤	薬量:300～500mℓ (水100～150ℓで希釈)	1年生雑草	畦間処理	雑草生育期 ただし収穫28日前まで

※注 畦間・株間に処理する場合は、必ず吊り下げノズルを使用する。

6.畦間かん水

- 開花期(7月末)から9月上旬まで土壌が乾いたら畦間かん水
- 水が行き渡ったら、速やかに排水する

7.本田病害虫防除

- 発生している病害虫を見極め、適期に防除する

防除時期			対象病害虫	農薬名と使用方法	
				粉剤	液剤
基本防除	1 回 目	8月上中旬 (開花期～若莢期)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	トライトレボン粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ブランドム乳剤25(4,000倍) カスケード乳剤(4,000倍) 150ℓ/10a (2剤とも収穫7日前まで)
	2 回 目	8月中下旬 (1回目の10～14日後)	紫斑病	Zボルドー粉剤DL 3kg/10a	※ アミスタートレボンSE(1,000倍) 150ℓ/10a (収穫14日前まで)
			カメムシ類 マメシクイガ	ダントツH粉剤DL 4kg/10a (収穫7日前まで)	
随時防除		7月下～8月上旬	ウコンノメイガ (ハマキムシ) マメシクイガ	—	プレバソフロアブル5(4,000倍) 150ℓ/10a (収穫7日前まで)
		8月下～9月上旬	フタスジヒメハムシ カメムシ類	スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)	カスケード乳剤(4,000倍) 150ℓ/10a (収穫7日前まで)
		8月下～9月中旬	ハスモンヨトウ カメムシ類 マメシクイガ	—	※ トレボン乳剤(1,000倍) 150ℓ/10a (収穫14日前まで)

※混合剤も含めた総使用回数は、トレボンが2回まで

8.刈取り

大豆専用コンバインの使用上の留意点

- 青立ち株や大きな雑草は、収穫前に抜き取っておく
- 子実水分が22%を切ったら刈取開始
- 刈取高さは地際から10cm程度とし、土を掻き込まない
- 刈取作業は莢の乾きを確認し、原則午前10時～午後4時までに行う
- 莢や茎が湿っている場合は作業しない

※規格外になると数量払いの対象になりません

汚損粒は絶対に出さない
※土や草汁が汚損粒の一番の原因です

